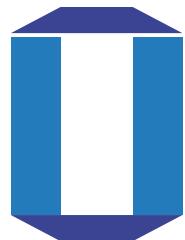


岡山大学広報

いちょう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA
UNIVERSITY

文化人類学への招待 Cultural Anthropology



Vol. 99

2022

CONTENTS

岡山大学の研究誌 地球化学 井上 麻夕里

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)ポリシー

広い世界で活躍する岡山大学の学生たち

岡山大学DS部 OU NAVI

文化人類学への招待

Cultural Anthropology

学術研究院社会文化科学 学域

文化人類学 准教授

松村 圭一郎

MATSUMURA Keiichiro

私たちは「性別」や「職業」「国籍」「民族」といった様々な社会集団のカテゴリーの中で生きている。「われわれ」と「かれら」を区別する「差異」は、いかにつくられ、集団が生成していくのか。「所有と分配」「これからの大学」：フィールド（エチオピアなど）とホーム（日本）を往復しながら、社会や世界の成り立ちを考える、松村准教授の「探訪」に迫る。



フィールドとホームの往復から社会・世界の成り立ちを考える。



①キャンパス内にて。②最初に調査したコンバ村の居候先、アッパ・オリ家。③アッパ・オリの孫の誕生を祝う席で。④収穫されたコーヒー豆の選別作業の様子。⑤トウモロコシの分配。

松村准教授が最初にエチオピアを訪れたのは大学3回生を終えた頃。大学を1年間休学し、それ以来、20年あまり毎年のように戸々の村に通い続けている。「たまたま大学の先生がエチオピアの専門家で、当初はアジアがいいかなとも思っていたんですが先生の助言もあって、渡航がスムーズなエチオピアを選択しました」と語る松村准教授。

現地では農村部などで、村の人々と生活をともにしながら様々なフィールドワークを行ってきた。「最初に訪れたのは、コーヒ栽培地帯のプランテーションに接した村でした。プランテーションで働く大家さんから部屋を間借りして現地の人達とひとつ屋根の下で暮らし始めた」と当時を振り返る。

松村准教授のフィールドワークは大別する3つの命題に分けられる。ひとつは、人々がどのように限られた富・資源を自分のものにしたり、人に分け与えたりしているのか（所有と分配・贈与論）。二つ目は、村に住む複数の異なる民族が、どのような関係を築いているのか（民族間関係・コミュニケーション論）。そして、アフリカ農村のようなローカル社会と国家や世界市場のような大きな枠組みがどのような関係にあるのか（贈物と商品・海外出稼ぎ・国家と市場・グローバル化）など。

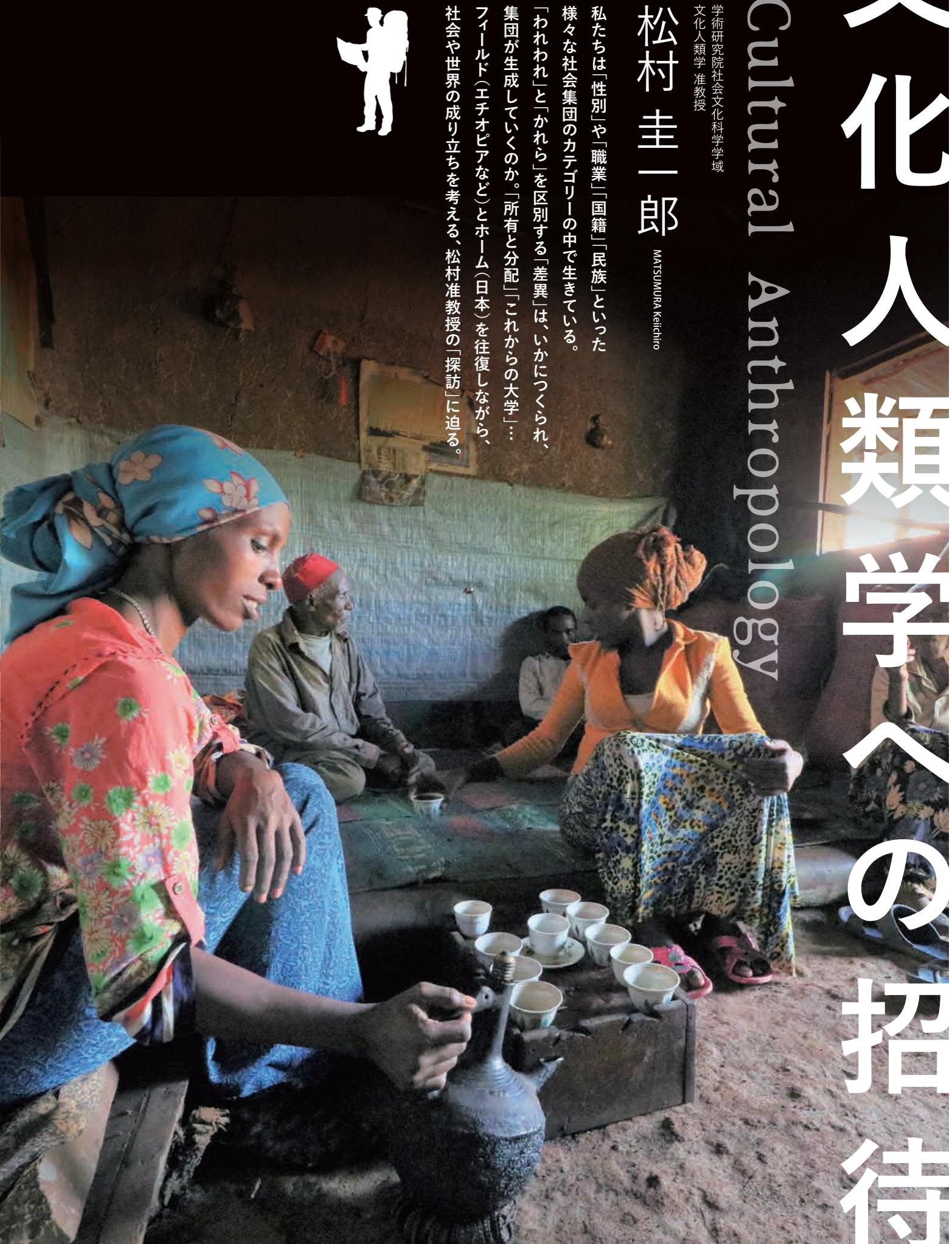
「所有と分配」に関して言えば、松村准教授は2008年に『所有と分配の人類学・エチオピア農村社会の土地と富をめぐる力学』（世界思想社）という本を書いている。人々は、富をいかに分け与え、「自分のもの」として独占しているのか？ エチオピアの農村社会を舞台に「所有」という装置が、いかに生成・維持されているのかを緻密に描き出した民族誌だ。「私的所有」

という命題へ、人類学の視点から挑んだデビュー作で、第30回発展途上国研究奨励賞、第37回避澤賞を受賞している。

その本の中に記されたある印象的なエピソードについて語ってくれた。「最初に部屋を間借りした時、その部屋の大家さんが私の短波ラジオを見て、『これいいねえ』みたいなかなりでそのまま持つて行ったんです。その後も自分のもののように扱って返つて来る気配もない（笑）。私のものが私のものとして扱われていない『貸してくれ』のひと言もない。違和感を感じましたね」。

「私のものは、いったい誰のものなのだろうか？ どこまで私のものでありうるのだろうか」。エチオピアの大家さんに平然とラジオを持っていかれてしまう、稀有な体験。違和感から始まる文化人類学。その後、松村准教授はエチオピアの人々の牛や土地（畑）・換金作物であるコーヒーなど、彼らのものに対するある種アバウトな「所有感」を様々な場面で垣間見ることになる。ある場面では「所有」を主張し、ある場面では躊躇なく、みんなに分け与える。「例えば、コーヒーは現地では貴重な換金作物なのですが、コーヒーを飲む時は必ず隣近所に声をかけてみんなで一緒に飲むんです。かと思うと商売の場面になると自分の親からもお金を見る（笑）。私にしてみれば『あれ？ みんなのものじゃないの？』みたいなリアクションです」。

エチオピアの調査から見えてきたのは、意外にも日本との差異ではなく、共通性だった。松村准教授は「エチオピアの人たちの所有をめぐる実践はひとつの中定した所有観にもとづいているわけではない。そこから日本の私たち自身も時と場合によつていろんな所有を使っていることに気づかされました」という。そして



「現実に私たちが状況に応じて異なる所有を実践していること、私的所有といふ単一の所有のあり方だけが正当だとは言えなくなるわけです」と、その研究の意義を語る。

慣れ親しんだ小さな世界から一步踏み出す。

松村准教授が「文化」を意識するようになつたのは中学生の頃。きっかけは生まれ育った熊本市から福岡県の博多まで初めて鉄道で一人旅をした時のこと。博多駅のホームに降り立つと、なんとなく人の雰囲気が熊本と違うことに気づいた。まず服装が違う。靴も違う。熊本だと革靴が多いのに、福岡ではスニーカーが目立つた。人と話しても、福岡の方がオーブンな感じがした。もちろんただの印象にすぎない。「そんな安易な県民性の比較は文化人類学からほど遠いのだけれど、当時の私は県境をまたいだだけで人の様子が変わることを單純に『おもしろい!』と思った」という。

文化人類学は、現場にみずから赴いて調査するフィールドワークを大切にしている。かつては「未開社会」の研究をすることも多かったが、現代の人類学は、先進国の金融街から軍隊、病院や研究所、都市のスラムなど、さまざまに変化していった。松村准教授は、「文化人類学者の中東への出稼ぎなどを調査をしていて、世界的な富の不均衡や格差はどう向き合えばよいのか、考えていること。常にフィールドとホームを往復しながら、社会や世界の成り立ちを考えていく、という意識とスタンスに変わりはない。

「2015年4月に岡山大学に来てからは、『セトウチ（中四国）の島や山に魅せられ、この場所から世界について考えたいと思いつたながら、いろんな場所を訪ね歩いています」と話す松村准教授。なぜ「わたし（たち）」は、こういう世界のあり方を「あたりまえ」として生きているのか。別の世界のあり方をどうやったら想像・創造できるのか。松村准教授の探訪は続く。



ど、ありとあらゆる場所が「フィールド」になる。どこが調査対象でも、慣れ親しんだ小さな世界から一步、外に踏み出す。その行為が重要な

になる。「なぜなら自分の『あたりまえ』は、その外側に出ることで気づくことができるから」と松村准教授は話す。

最近は、エチオピアへの国際的な食糧援助やエチオピア女性の中東への出稼ぎなど

の調査をしていて、世界的な富の不均衡や格差はどう向き合えばよいのか、考えていること。

常にフィールドとホームを往復しながら、社会や世界の成り立ちを考えていく、という意識とスタンスに変わりはない。

1 コンバ村に近い町アガロの市場。2 コンバ村で出会った子どもたち。3 丘の上からコーヒー農園を眺める。左に労働者村が見える。

4 アガロの市場。5 トウモロコシ畑に向かう農民。6 ラマダン（断食月）明けの礼拝。7 水くみから戻ってくる少女。



これからの大學生



話のテーマは「これからの大學生」へと移る。その冒頭、松村准教授はいきなり「大學生に『教科書』はない」と言いった。その真意を尋ねると「唯一の正しい答えがある」と「書かれてある」という意味での『教科書』はない。授業で用いる本は、あくまでひとつずつ参考すべき『テキスト』に過ぎない」と続けた。

「私が知っていることを教えるというより、私が知りたいことを教える。授業は研究活動のひとつ。あーだこーだ学生たちと一緒に考えるのが大学」。聴く者に鋭く響く松村准教授の刺激的な大学論は、2019年に出版した『これからの大學生』（春秋社）に詳しく書かれている。気鋭の文化人類学者による『学問』のすすめ。高等教育ができることは、誰もが自分の学びを追求するには？ 大学の教育環境が大きく変貌しつつある今だからこそ、知の喜びとは何か根本から考える。学生のみならず、新しい視点で世界を見つ

めようとするすべての読者へ向けられたのがこの一冊だ。

「世の中の多くのことは正解はありません。例えば、『何を食べたら健康になれるの？』とか『どんな人と結婚したら幸せになれるの？』とか『どんな本を書いたら売れるの？』とか…当然、答えはひとつじゃないですね。だから教科書の答えを覚えるだけでは意味がないのです」。

時折、松村准教授は「わかったようなことを書くな」と学生たちに言うそうだ。例えば『街づくり』とは何か？ 商店街に人を集めることが街づくりなのか？ 「様々な事象において、わかつていなことを自覚し、わからないことに向き合う姿勢が大切」と松村准教授は唱える。

最後に：「最初から大学で何を学べばよいか、わからないかもしれないがそれでいい。『まだ知らない何か』を探求してみたいという意欲を持ち、数年後に今の自分には想像できない『まだ知らない自分』になりたいと願う学生たちと、ともに学び続けていきたい」と松村准教授はこの話を締めくつった。

松村 圭一郎
■専門分野／文化人類学
1975年生まれ。
京都大学大学院人間・環境学研究科修了。博士（人間・環境学）。
京都大学助教、立教大学准教授を経て2015年より現職。
受賞歴
第4回日本文化人類学会奨励賞
(2009年5月)
第30回若手研究奨励賞
(2009年7月)
第37回造瀬賞(2010年12月)
第72回毎日出版文化賞・特別賞
(2018年11月)

BOOKS



「所有と分配の人類学」
世界思想社(2008)



「これからの大學生」
春秋社(2019)



文化人類学の視点から社会、暮らしを読み解いた多彩な著作群。



地球化学会 井上 麻夕里

サンゴの研究を通じて見えてくる
これから 地球とその課題。

赤道を中心に熱帯から亜熱帯海域に分布するサンゴ礁は、地球上でもっとも海洋生物の種が豊富(生物多様性に富む)と考えられ、同時に観光や漁業資源、さらには天然の防波堤として人々の暮らしを支えている。造礁サンゴはそうしたサンゴ礁の土台となる重要な生き物だが、近年の地球温暖化や海洋酸性化による影響を与えるものと懸念されている。しかしながら、「そもそもサンゴがどのように成長しているのか」はまだ解明されていない点が多く、そこで井上教授の研究グループでは、サンゴ礁の骨格成長に焦点を当て、環境ストレスが骨格成長に与える環境評価について、地球化学的視点から研究を続いている。

ループでは、サンゴ礁の骨格成長に焦点を当て、その成長メカニズムの解明や海水温の変化など、環境ストレスが骨格成長に与える環境評価について、地球化学的視点から研究を続いている。井上教授は、生まれたての稚サンゴを使って、共生藻を持つサンゴと持たないサンゴの飼育実験に成功。サンゴの骨格成長に寄与する共生藻の役割を解明した。(下記参照)

「サンゴ礁の礎は、生き物である造礁サンゴの骨格成長によって築かれています。サンゴの骨格は炭酸カルシウムからできていますが、これまで共生藻の行う光合成によるエネルギー供給がサンゴの成長にとって重要である」とは報告されています。今回の成長にとて重要なことは報告され、報告については、明らかになつていませんでした。今回の研究によって、共生藻が光合成を行う際にサンゴ体内の二酸化炭素を消費し、体内のpHが上昇することで、「より石灰化しやすい環境」となっていることが明らかになりました。

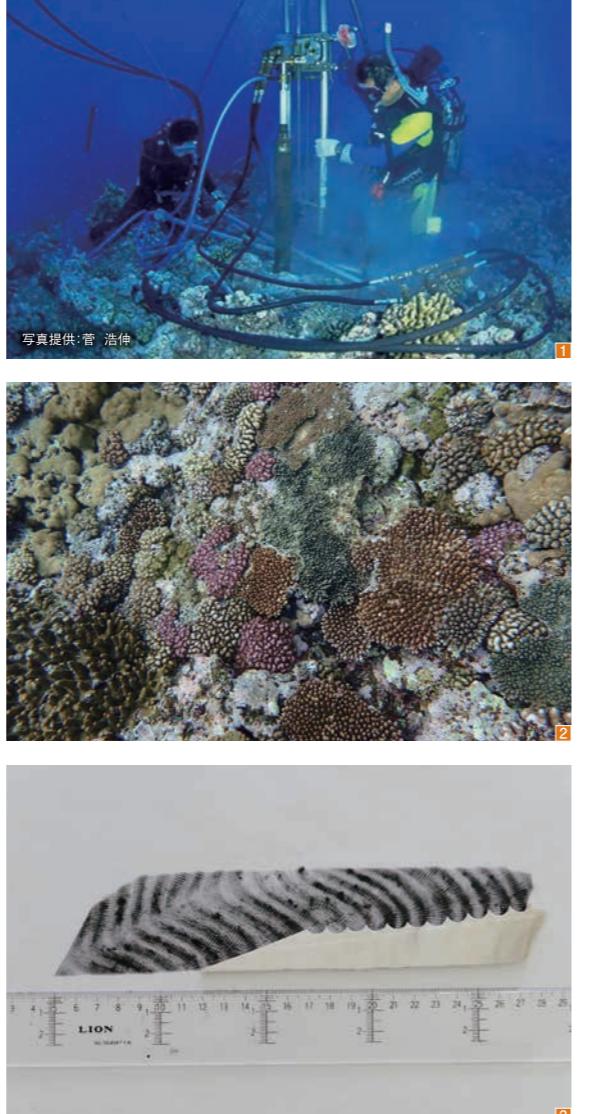
そして今回、井上教授は、生まれたての稚サンゴを使って、共生藻を持つサンゴと持たないサンゴの飼育実験に成功。サンゴの骨格成長に寄与する共生藻の役割を解明した。(下記参照)

「サンゴ礁の礎は、生き物である造礁サンゴの骨格成長によって築かれています。サンゴの骨格は炭酸カルシウムからできていますが、これまで共生藻の行う光合成によるエネルギー供給がサンゴの成長にとって重要である」とは報告されています。今回の成長にとて重要なことは報告され、報告については、明らかになつていませんでした。今回の研究によって、共生藻が光合成を行なう際にサンゴ体内の二酸化炭素を消費し、体内のpHが上昇することで、「より石灰化しやすい環境」となっていることが明らかになりました。

と話す井上教授。

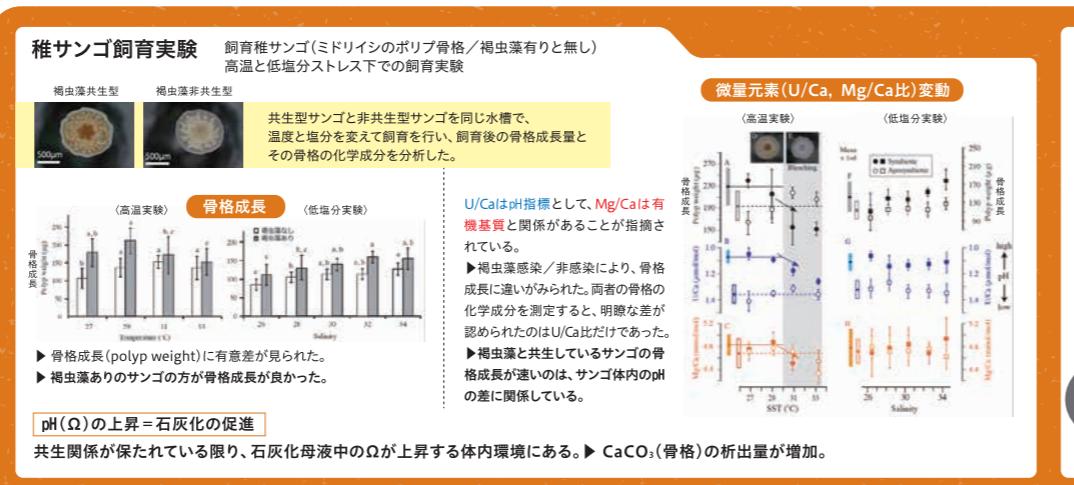
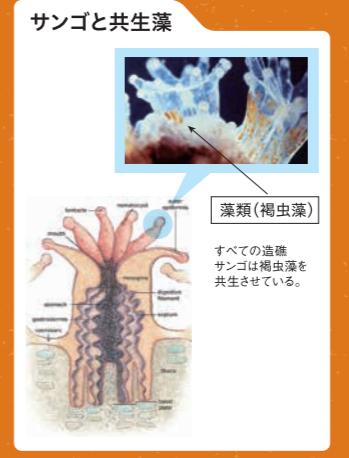
「サンゴが共生藻のほとんどを失ってしまう」と話す井上教授。「サンゴの白化」が、いかにサンゴ礁の成長を阻害するかが示された今回の研究。造礁サンゴはサンゴ礁を形成するだけでなく、その骨格には過去の海水温なども記録されており、昔の気候を知ることができる地質学的試料としても大きな価値を秘めている。それゆえに今回の結果は画期的と評価され、将来的にはJの研究成果が白化が進むサンゴ礁の保護にもつながるものと期待されている。最後に、「フィリピンやインドネシアなどの海を調査すると、気候変動が地球規模で起きているのを実感します。サンゴの研究を通じて、そのメカニズムも解明できたらと思います」と今後の展望を語った。

出産・子育てをしながら研究に取り組む日々。



サンゴの骨格成長に寄与する
共生藻の役割を解説。

今回の実験でサンゴ礁を形成するサンゴ(造礁サンゴ)は体内の共生藻が光合成をすることで、サンゴ体内的pH環境が変わり、骨格成長が促進されることが判明した。さらには生物多様性の高いサンゴ礁が形成され、成長するには、サンゴと共生藻の健全な共生関係が重要であることが示唆された。



学術研究院自然科学学域 教授

井上 麻夕里 (いのうえ まゆり)

■専門分野
地球化学／古環境学

1977年生まれ。岡山県出身。岡山大学教育学部卒。岡山大学大学院教育学研究科修士課程修了。東北大学大学院理学研究科博士後期課程修了。博士(理学)。日本学术振興会特別研究員・東京大学大気海洋研究所助教などを経て2020年10月より現職。地球化学研究協会「進歩賞」受賞(2015年12月)

岡山県の南東部、兵庫県と境を接する備前市日生町に生まれた井上教授。幼い頃は家の裏に流れれる川で遊んだり、小学生の頃はバーボンボールに夢中になるなど、本人いわく「活発なタイプ」だつたとのこと。「海は好きでしたか?」の質問に、「活発でしたが、実は小さい頃は海で泳ぐのが嫌いででした。海水で髪がべとべとしたり、海藻がくつついたりするのが苦手だったんです」と笑う。共生・非共生の稚サンゴの飼育実験を思いつき、開始したのは13年前のこと。その後、時間をかけてさまざまな分析を行い、論文が完成、その研究成果は2018年6月6日、アメリカ

chimica Acta]に掲載された。「実はその間、2017年3月に男の子を出産しました。ちょうど論文の改訂作業が出産・育児と一緒に大きくなりました。今は研究と子育ての両方に日々奮闘中です」と話す。井上教授のように出産・育児しながら研究活動に取り組む女性研究者は理学部の中でも増えつつあるとのこと。「岡山大学は研究支援など制度も整備されています。私自身は『甘えさせてもらえるところは甘えさせてもらおう』というスタンスで取り組んでいます」と朗らかな表情。2018年、研究成果を発表したプレスリリースに井上教授はこんな記述を寄せた。「サンゴの赤ちゃんの方は世に送り出しができました。自分の赤ちゃんのお世話をこれからも頑張りたいと思います」。これからも必要なやかみ

理解し合い、尊重し、共に成長する

ダイバーシティ & インクルージョン

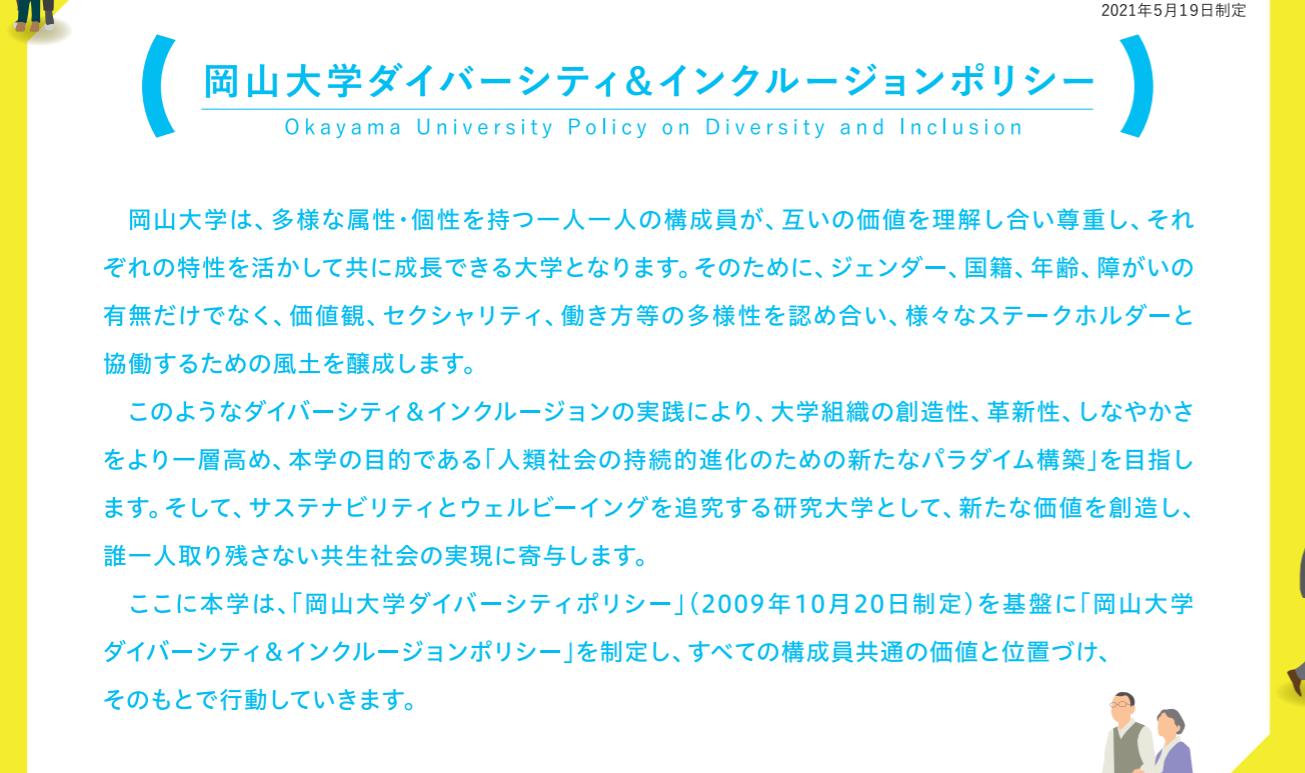
(D&I)ポリシー

岡山大学では、2009年1月にダイバーシティ推進本部を設置し、「岡山大学ダイバーシティポリシー」のもと、女性研究者支援をはじめとする男女共同参画、保育所運営などの次世代育成支援、障がい者雇用など、構成員の多様性を高めるための様々な取り組みを推進してきました。2020年4月には、大学のすべての構成員がそれぞれの力を最大限發揮し、構成員の多様性を高めるための様々な取り組みを推進してきました。

2020年4月には、大学のすべての構成員がそれぞれの力を最大限發揮し、多様性を活かすことができる組織文化の醸成を目的として、「ダイバーシティ&インクルージョン企画推進委員会」が組織され、D&Iに関する学内の専門家ら12人が、約1年間、ジェンダー、障がい者、外国人研究者、留学生、高年齢者を主な視点として、これまでの取り組みの検証と、共に成長できる大学となることを宣言しています。

D&Iの推進に向けた将来像の検討を行いました。

その成果として提言書をまとめ、学生・教職員・外部有識者を含め全学的な議論を行い、2021年5月に「岡山大学ダイバーシティ&インクルージョンポリシー」を制定しました。新たなポリシーでは、構成員が互いの価値を理解し合い尊重し、それぞれの特性を活かして、共に成長できる大学となることを宣言しています。



D&Iポリシーを共通の価値、行動指針に

D&I企画推進委員会の活動は、私自身にとって、気づきと学びの連続であり、また、委員会活動を通じて、岡山大学がすでに多様性を備えた大学であることにも気づかされました。学内外の皆様にご意見を伺う中で、ポリシーに対して、キーワードとなるカタカナに訳語を付してはどうかとのご意見もいただきましたが、それぞれの語の意味を問うことがD&Iの実践でもあるとの思いから、あえて訳語を付さないという選択をさせていただきました。第4期中期目標期間では、新たなポリシーのもと、D&Iの一層の推進に向けて、環境整備が具体化していくことになります。新しいポリシーが岡山大学すべての構成員の共通の価値となり、行動の指針となることを願っています。



上席副学長〔特命(法務・コンプライアンス、
ダイバーシティ&インクルージョン)
/ 学術研究院法務学域 教授
神例 康博
KANREI Yasuhiro

D&I企画推進委員会メンバーに聞く!

「誰一人取り残さない」

この度D&Iポリシーの策定にあたり、できるだけ簡潔な表現を目指しながらも、ジェンダーという言葉の深さやグラデーションについても反映しつつ「誰一人取り残さない」というメッセージが伝わればといふ意を込めました。表現を推敲する中で重ねたディスカッションやプロセスそのものも学び深いものでした。今後ポリシーが基盤として根付き、よりよい未来に繋がればと願っています。



男女共同参画室 室長／
岡山大学病院 ダイバーシティ
推進センター 教授
片岡 仁美
KATAOKA Hitomi

岡大が目指す

これからのD&I

「持続可能な共生」に向けて

皆さんがご存知のSDGsですが、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」という世界的な文書中の国際共通目標に関する部分であり、その本質は「2030アジェンダ」文書全体の世界観である「持続可能な共生」です。その根底に流れるものはD&Iだといえます。一人ひとりのウェルビーイング向上のため、本ポリシーが全学でD&Iを推進するための起点になればと思います。



男女共同参画室 副室長／
学術研究院自然科学学域 教授
今村 維克
IMAMURA Koreyoshi

D&I文化の醸成を目指して

大学は学部生、院生、教員、職員など多くの異なる立場、さらに男女や年齢、疾病、障がい、国籍、マイノリティなど様々な特性を持つ者で構成されており、ある意味で多様性のある環境といえます。誰もが自分の持つハンディやマイノリティによって不利になることなく、一人ひとりが自身の長所を生かし、目標に向かって働き・学ぶことが出来るD&Iの文化が醸成され、岡山大学の更なる飛躍に繋がることを期待しています。



保健管理センター 助教
樋口 千草
HIGUCHI Chigusa

上席副学長〔特命(グローバルエンゲージメント戦略)〕/
グローバル・エンゲージメント・オフィス(OUGEO) 教授
横井 篤文
YOKOI Atsufumi

作曲

持ち前のアレンジ能力が活かせる作曲の道へ。

小学生の頃、ハンドボールとピアノに夢中だったという徳田さん。高校は岡山県内屈指のハンドボール部の体験入部に行つたんです。すると、周りの人達のあまりのレベルの高さにびっくり…。その時のショックでハンドボールは諦めて、部活は音楽吹奏楽部を選択しました」と当時を振り返る。作曲をするきっかけは、高校入学当時、ピアノの指導をしてもらっていた先生からのひと言だったそう。「もともと私は楽譜通りに弾かないところがあつて…それならばと先生に『作曲をやってみないか?』と勧められました。今思えば、私のアレンジ能力を伸ばす意味合いもあつたようで、作曲への道を拓いてくれた先生には感謝しています」と微笑む。

高校卒業後は島根大学教育学部音楽教育専攻作曲専科へ進み、2021年4月から本院教育学研究科で音楽教育と作曲を学んでいる。そして今回、「第31回TIAA全日本作曲家コンクール」で審査員賞を受賞。受賞の感想を尋ねると「安心しました」と即答した。「その真意は?」との問い合わせは「コンクールはこれが3回目(トータルは2回目)、それまではまったく駄目で、

多才なキャリアを活かし
「歯学部初の一B生」
として入学。

2021年8月、「令和3年度スチューイング・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)」主催・日本歯科医師会の日本代表選抜大会がWebで行われ、上位4名による最終選考の結果、本学代表の歯学部4年・棚井あいりさん(ファカルティアドバイザー・口腔形態分野 岡村裕彦教授)が見事優勝の栄誉に輝いた。

当大会は、全国の歯学部生による研究コンペティションで、学生が主体となって研究を行い、その成果を英語でプレゼン、最も優秀な発表を表彰するもので本年度は、全国から代表者21人が参加した。

もともと幼い頃から医療系に興味があつたという棚井さん。歯学の道を志した動機を尋ねると、「中学から高校にかけて歯の矯正をしました。その時、歯ひとつで人の印象はこんなにも変わるんだ!」と感動したのがきっかけだったそう。海外経験が豊富な両親の勧めで、1歳から高校までインターナショナルスクールに通つた棚井さん。言語だけでなく、レーボールやサッカーに親しみ、その他「も

〔Women's Education Support Committee〕

広い世界で活躍する



兩道



岡山大学の学生たち



審査員賞受賞!

第31回TIAA全日本作曲家コンクール

徳田旭昭
とくだあき
大学院教育学研究科1年

今回が初めての受賞なんです。自分がやつてきただけが間違いやなつたという安心感、そしてこれまで指導してくださつた3人の先生方にいい報告ができるという安心感です」と素直な心境を打ち明けた。

徳田さんは指導する学術研究院教育学域の齊藤武教授は、「細分化、ミニアック化が進んでいる現代音楽ですが、これからは日本性と繊細さで確実に進化しています。もちろんまだ未熟さもありますが、これからは日本の現代音楽シーンに多くの作品を出してほしい。そして地域(岡山)のリーダー、ひいては日本、世界へつながつてほしいと願っています」とエールをおくる。

現在、教員資格を持つ徳田さん。大学院卒業後は、音楽教員を視野に入れながらも作曲活動は続けていたいとのこと。現在も結婚式での曲やCM曲などの依頼があるそうだ。今回の受賞曲「Circha for flute solo」への想いを徳田さんは素直な言葉で記してくれた(下記)。本作品は「あらゆる面でリスクベクトリード」という諸田大輔准教授(専門・フルーティ)により、11月に初演された。徳田さんの今後の活動が期待されている。



受賞曲 "Circha for flute solo"への想い

世界的に不安定な情勢が続く昨今

では、従来とは比較にならないほど

速さで社会が変化

している。それは、

かつての戦後の技術革新時代における羨望的な変化ではなく、数年先の明るい未来予想も困難なほどの憂わしげな変化である。こういった不安定な社会情勢の変化は、かつての美しい風景や人々の営みが失われることも危惧されている。これらに対する思慕の念に浸る余裕もなく、さらなる変化を繰り返せざるほしい。そして地域(岡山)のリーダー、ひいては日本、世界へつながつてほしいと願っています」とエールをおくる。

私はこの混迷とした社会のバランス感覚を、

この現代音楽の精神として起用したいと考えた。

冒頭のD音を中心としたいくつかの簡素的な素材は本作品の骨格となるこの素材は少しずつ装飾され、曲の進行に伴つて変化を繰り返していく。彼らの変化を繰り返せざるトヨニアによつて変化が頂点に達すると同時に、次第に解体され、冒頭の簡素な音響に完全に回帰するのである。このような変化を繰り返しつゝも、最終的には原点(もとの様子)に帰着するという構造を、自身の社会情勢に対する将来的な願いに重ね合わせた。また、タイトルにある「Circha」(読みサーキュ)は造語であり、円環を意味する「Circle」と変化を意味する「Change」を組み合わせたものである。

徳田旭昭

日本代表選抜大会優勝!

日本歯科医師会主催

令和3年度SCRP

棚井あいり

歯学部4年



「女性教育支援部」「Volunteer for the Homeless(ホームレスに対するボランティア)」「Yearbook Committee(アルバム編集部)」などの活動に取り組んできた。岡山大学にはそうした多彩なキャリアを活かし、「歯学部初の一B生」として入学している。

研究活動・発表を通じて人間的にも成長。

今回の研究は、歯周病が胎児の成長発育阻害(低体重児出生など)を誘導する分子メカニズムについて解析したもので、棚井さんは、今大会の優勝により、2022年3月にオンラインで開催される国際歯科研究学会での発表に日本代表として参加する予定です。

研究活動を通して、単に実験手技を学ぶだけでなく、「学問と研究を両立するためのタイミングメント能力、周りの人々に対する協調性、感謝の気持ちがいかに大切かを学びました」という棚井さん。続けて、「1次審査は書類と動画によるもので、動画は7分くらいのものでしたが、私はじうしてもワントイクで撮りたくて、岡村教授を

はじめ先生方に協力していただきました。撮影中は救急車のサイレンが入つたり、トイレのドア音が入つたり大変でしたが、先生方が細やかな所までお気遣いくださいました。無事納得がいくものに仕上がりました。今振り返れば、周りの方々の献身的な協力が一番の思い出として残っています」と感慨深げ。

そつした棚井さんの姿を知る岡村教授は、「優勝という結果はもちろん素晴らしい。ただそれにも増して彼女が研究から発表までの過程を通して、人間的にも成長したのがうれしいですね」と微笑む。学部卒業後は大学院に進学し、臨床だけでなく基礎研究を継続して、これまで得られた経験や実験手技を後輩に伝えられるようにしたいといつぱり棚井さん。旺盛な好奇心と真っ直ぐの眼差しで自分の未来をしなやかに切り拓いていく。

※国際バカラース(一B)International Baccalaureate(国際バカラエート)に本部を置く国際的な教育プログラム。グローバルに活躍する人材の育成を目的としたプログラム修了時の卒業試験に合格した者に国際的に通用する大学入学資格を与えている。

DS部活動中！

01 開発実績

俳句コンテストでの類句検知

「伊藤園 お～いお茶 新俳句大賞」の選考過程において、類句検知の技術支援を行った。

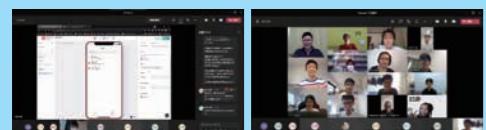
図書館モニタリング

附属図書館の混雑状況の可視化、QRコードを用いた入館システムを開発した。

02 活動実績

岡大DXハッカソンの開催

岡山大学の学生・教職員を対象にハッカソンを開催、NoCodeの使い方をレクチャー。



プログラミング勉強会

データ分析コンペティションでの入賞を目指し、Pythonを使った機械学習プログラミングの勉強会を実施。

岡山イノベーションコンテストへの応募

DS部から3人、ビジネスプランを応募。

HP制作

DS部のHPをNoCodeツール「STUDIO」で制作。
<https://okadai-dsc.studio.site/>



03 開発中のアプリ・システム

■ 岡山学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト

■ 乾パンプロジェクト（両備システムズ）

■ 通勤時間概算の推定（中国銀行）

■ Raspberry Piを使った建築物モニタリング



宮本 昨年8月に開催した「岡大DXハッカソン」では、参加者の中に留学生がいたので、私はハンズオンの際、チャットによる英語翻訳を担当しました。私は文系なので、プログラミングが分からず人の気持ちがよく分かります。そういった意味では、NoCodeは私も入りやすかったです。DS部では、アイデア提案も担当しつつ、プログラミング言語「Python」の知識は有志のメンバーから教えてもらっています。

伊藤 私の場合、2年の2学期、野上先生の講義を受けた初日に「何かできるようになりたいんですが、何からしたらいいかわかりません！」とメールしたことすべてのきっかけでした。そこから授業とか関係なしにいろいろ教えてもらっていて、DS部にも誘っていたらしくてHPを作っています。何もできなかつた私が、何かを作る。カタチになること

が自信につながりました。DS部ではとにかく「実践が先」。とりあえず「実践！」です。

宮本 私も幼い頃からプログラミングに興味がありました。理数系の教科が苦手だったため、あきらめました。でもDS部では「やりたい」とが浮かぶとそれを実現できるメンバーが周りにいるんです。メンバーと話していると、いつの間にか「カタチにできるまでの道筋」が見えてきます。

池坂 一人が言う通り、DS部は適所、メンバーそれぞれが得意なジャンルで動いています。そしてメンバー全員、とにかく志が高い。みんなが集まるといい意味で「化学反応」が起こります。そういう意味では私自身、DS部の活動を通じて、チーム作りやスケジュール管理などプロジェクトを推進するため必要なマネジメント能力も勉強させてもらっています。

伊藤 私自身は池坂さんが目標です。これからどれだけ食らいついでいるか。「とにかくやるしかない。DS部に参加して得られるものを得たい」と思っています。口口ナで何度もできなくて、将来に不安を感じていた頃を思うと、忙しいと思える今が幸せです。

宮本 まず乾パンプロジェクト（両備システムズ）をカタチにすること。そして昨年2次審査止まりだった「岡山イノベーションコンテスト」、さらにプラットフォームとして再チャレンジします！

これからの目標、自分像は？

野上 活動を始めてまだわずかですが、当初私が考えていた以上の成果と広がりを見せていました。これには正直、私自身が驚いています。多才なメンバーが自然発的に集まって動くという意味では「DS部は小さな会社」です。口口ナ禍で圧縮していた学生たちのエネルギーが、DS部というステージで一気に弾けた。岡山の地の利を利用して、地方だからできる」と。そう考えるとまだまだターゲットはあります。DS部には学部の枠を超えて、ステークホルダーを巻き込んで、岡山からのろしを上げてほしいと思っています。

*ハッカソンとはハック(Hack)とマラソン(Marathon)を組み合わせた言葉。今回の岡大DXハッカソンではNoCodeツールを使いすることで、非エンジニアでも気軽に参加できるイベントでした。

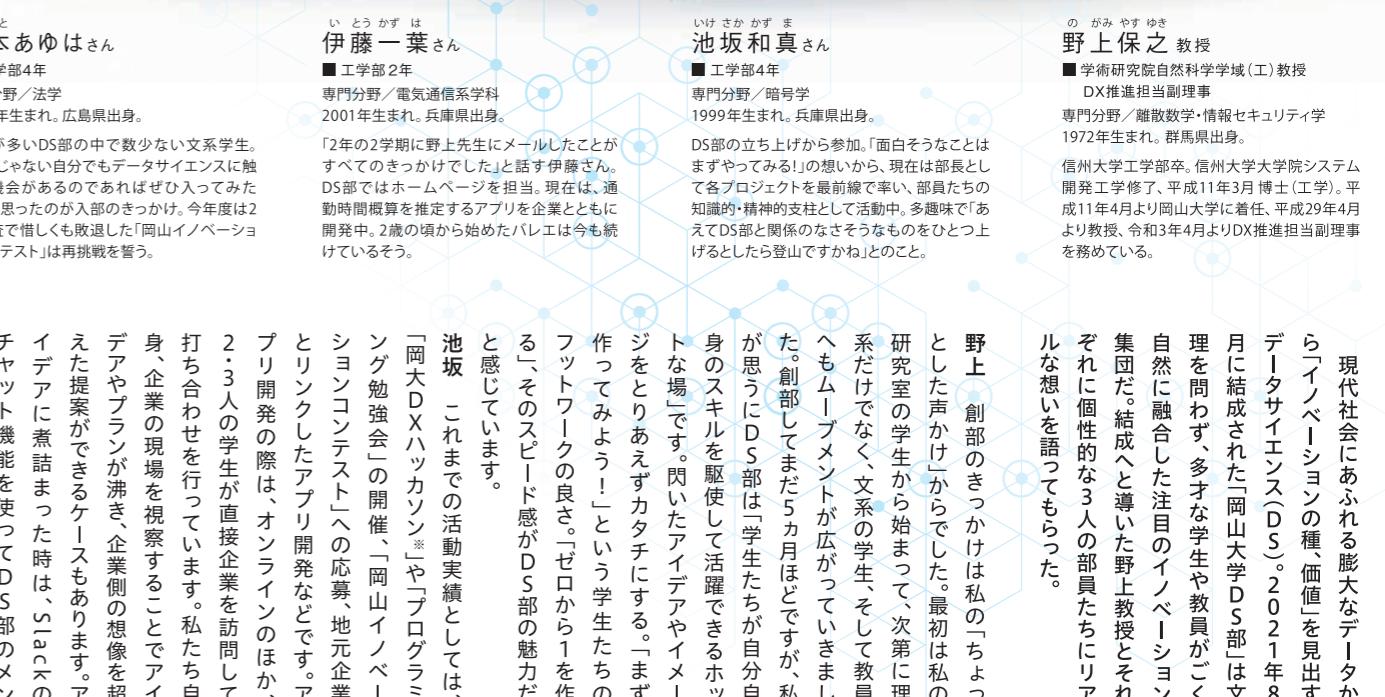
岡山大学DS部とは？

DS(データサイエンス)とアイデアで新たな価値の創出を目指す学生・教職員の団体。文理や学年の枠を超えて、データサイエンスと大学での学びの成果で課題に挑む。初心者でもデータサイエンスを扱い、身の回りの課題をパパッと解決する、そんな組織を目指している。現在、部員は約60人。

<https://okadai-dsc.studio.site/>



「DS部は小さな会社」。学部の枠を超えて新しい価値、イノベーションを岡山から！



現代社会にあふれる膨大なデータから「イノベーションの種、価値」を見出すとした声かけからでした。最初は私の研究室の学生から始まって、次第に理系だけでなく、文系の学生そして教員へもムーブメントが広がっていきました。創部してまだ5ヵ月ほどですが、私が思うにDS部は「学生たちが自分自身のスキルを駆使して活躍できるホットな場」です。聞いたアイデアやイメージをとりあえずカタチにする。「まずは作ってみよう!」という学生たちのフットワークの良さ。「ゼロから1を作り」、そのスピード感がDS部の魅力だと感じています。

池坂 これまでの活動実績としては、「岡大DXハッカソン」や「プログラミング勉強会」の開催、「岡山イノベーションコンテスト」への応募、地元企業とリンクしたアプリ開発などです。アドバイスを受けた際に、オントライアンド開発の際は、オンラインのほか、2~3人の学生が直接企業を訪問して打ち合せを行っています。私たち自身、企業の現場を観察することでアイデアやプランが湧き、企業側の想像を超えた提案ができるケースもあります。アドバイスに煮詰まった時は、Slackのチャット機能を使ってDS部のメンバーに意見をもらうことが多いですね。

池坂 これまでの活動実績としては、「岡大DXハッカソン」や「プログラミング勉強会」の開催、「岡山イノベーションコンテスト」への応募、地元企業とリンクしたアプリ開発などです。アドバイスを受けた際に、オントライアンド開発の際は、オンラインのほか、2~3人の学生が直接企業を訪問して打ち合せを行っています。私たち自身、企業の現場を観察することでアイデアやプランが湧き、企業側の想像を超えた提案ができるケースもあります。アドバイスに煮詰まった時は、Slackのチャット機能を使ってDS部のメンバーに意見をもらうことが多いですね。



高比表面積キャパシタ 炭素電極の開発



梅澤 大学院生 星和電機(株)

岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程の梅澤成之大院生と同学術研究院自然科学研究域(工)の林靖彦教授、関西学院大学、星和電機株式会社、そして英国のSurrey大学の国際共同研究グループは、亜鉛を含む金属有機構造体(MOFs)を出発原料とし、ミクロ孔、メソ孔が豊富に含まれる高比表面積の多孔質炭素材料を開発しました。本研究では、出発物質に亜鉛を含む金属有機構造体(MOFs)を用い、亜鉛や酸素の含有比率が焼成中の亜鉛の動的挙動に影響し、多孔質炭素材料の細孔特性に大きく影響することを明らかにしました。この多孔質炭素材料は、市販の活性炭を超える高比表面積をもち、電気二重層キャパシタの電極に用いることで高容量化を実現しました。本成果は、新規の多孔質炭素材料の製法として、今後の期待が高まるエネルギー貯蔵デバイス電極材料や燃料電池触媒担体の開発へつながります。

本研究成果は、2021年12月4日に出版社Wiley社の学術誌「Energy & Environmental Materials(Impact factor:15.122)」のResearch Article(First published)として掲載されました。

PICK UP!

「岡大TV」の配信を開始

本学は、令和2年度に国立大学イノベーション創出環境強化事業に採択されており、その取り組みの一環として、岡山大学のブランド力向上を目的とした「岡大TV」を立ち上げました。

高校生をメインターゲットに、今こそ岡山大学を選んでもらえるようYouTubeを中心にInstagramやTwitter等のSNSを連動させ、学内の名所や日常生活、サークル活動等、岡大生が学生目線で魅力発信を行います。また、FacebookやTikTokも連動させ、受験生の保護者など様々なステークホルダーに向けて情報発信を行う予定です。第1回目は「空から見る岡大と秋の銀杏並木」として、YouTubeチャンネルの配信を開始しました。その他のSNSも随時更新予定です。



「岡山イノベーションコンテスト2021」 岡山大学発ベンチャーがグランプリ、 工学部・吉田さんが大賞、 自然科学研究科・長島さんがMASC賞を受賞！

AWARD

優れたビジネスモデルをコンテスト形式で評価する「岡山イノベーションコンテスト(OIC)」のファイナルステージが11月27日に開催され、本学発のベンチャー企業「そなえ株式会社」の森三貴子さんがビジネス部門大賞並びにグランプリを受賞しました。また、工学部4年の吉田裕哉さんがビジネスプラン部門大学・専門学校生の部で大賞を、自然科学研究科1年の長島慶樹さんがMASC賞を受賞しました。本学発ベンチャーのグランプリ受賞は、5度目にして初の快挙です。

コンテストは、地域の起業家育成を目指す「岡山イノベーションプロジェクト」の一環で5度目の開催。今年は103組の応募がありました。本学学生も参加しており、楳野博史学長は高校生の部の審査員を務め講評を行いました。



令和3年度秋季岡山大学入学式、 大学院入学式を挙行

CEREMONY

本学は10月1日、秋季入学式を創立五十周年記念館で行い、新たに入学したグローバル・ディスカバリー・プログラム学生24人と大学院生118人が大学生活へのスタートを切りました。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、出席者を新入生と学内関係者のみに制限した上で、開催しました。

楳野博史学長は式辞で「今日、あなたの学歴の新たな入り口に立っています。一歩踏み出して、新しい道を切り開くことに挑戦しましょう。私たちはサポートします！」と新入生を激励。新入生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムの久保よつ葉さんが「私たちは現在直面している国際的、社会的な課題を解決するために、より豊かで多様な視点を求めクラスマートと協力していくことを誓います。私たちはお互いに助け合い、探究心を持って勉学に取り組み、持続可能な未来に貢献する決意を新たにしています」と宣誓しました。

競技ダンス部の内藤さん、 佐崎さんが全日本学生競技ダンス 選手権大会で悲願の初優勝！

AWARD

12月4~5日に開催された「第66回全日本学生競技ダンス選手権大会」で、タンゴの部に出場した本学競技ダンス部の内藤統太さん(理学部)、佐崎琴未さん(工学部)のペアが優勝しました。昨年の同大会でもタンゴの部で3位となり、今回、ペアとして最後の全日本選手権大会で、悲願の初優勝を果たしました。

本大会のタンゴの部には、全国の予選を勝ち抜いた40組が出場しており、1次予選・2次予選を勝ち上がった6組が決勝で競った中で、「女性の強さが際立ち、音楽、スピード、軸の強さが良かった」と評価された内藤さん・佐崎さんペアが、見事1位となりました。初優勝を振り返り、内藤さんは「率直にとても嬉しいです。たくさんの方から連絡を頂いて優勝した実感が湧いてきています。パートナーとこれまで頑張ってきて良かったです」、佐崎さんは「優勝して当たり前だ！」と思えるほど練習したので、本当に嬉しいです。コロナ禍の中、モチベーションを保つのが難しい時期もありましたが、なんとかやり切ることが出来ました」と喜びを語りました。



大村智博士岡山大学名誉博士称号授与式 記念講演会他を開催

AWARD

本学は1月21日、2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士へ岡山大学名誉博士の称号を授与する式典及び、記念講演会をオンラインで開催しました。本学学生を中心350人を超える参加がありました。



授与式では、大村博士から「私は、岡山大学医学部の前進である第三高等学校の出身で梅毒の特効薬を見つめた秦佐八郎先生の孫弟子にあたり、色々な場面で勉強させていただきながら今日に至っている。秦先生の出身である岡山大学より称号授与をいただくことは、ひときわ感慨深く、また光栄なことであり、心よりお礼を申し上げます」と謝辞をいただきました。

「イベルメクチンと感染症」と題した記念講演会では、米国留学でチャンスを掴んだこと、イベルメクチンを見つめ、オンコセルラ症、リンパ系フィラリア症の撲滅に繋がっていましたこと、また、イベルメクチンは、新型コロナウイルスに対しても諸外国で多くの臨床研究が行われて適用されており、そのメカニズムについても言及がありました。最後に、学生・若い研究者へ向けて「自分が率先して難しい仕事に従事していくという姿勢が大事であり、特に共同研究にあたっては、易しい方に流されず、難しい方に自分を振っていくという構えをもって、皆で共同研究をされた方が良い」とエールをいただきました。

医学部創立150周年記念式典を挙行

CEREMONY

医学部創立150周年記念式典を11月3日、ホテルグランヴィア岡山で挙行しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、1年延期の記念式典となりましたが、ご来賓、教職員や卒業生・医療関係者など約150人が、150年の大きな節目をお祝いしました。

豊岡伸一医学部長、楳野博史学長のあいさつの後、伊原木隆太岡山県知事、大森雅夫岡山市長が祝辞を述べられました。特に多額のご支援をいただいた6団体に岡山大学医学部名譽団体表彰を行い、代表して越宗孝昌山陽新聞社相談役からあいさつがありました。

医学部は、明治3年に設立された岡山藩医学館を出発点とし、岡山県医学校、第三高等学校医学部、岡山医科大学と多くの変遷を経て昭和24年の学制改革により現在の岡山大学医学部となりました。これまでに12,000人以上の卒業生を送り出し、数多くの優れた医師、研究者を輩出し、地域医療のみならず医学研究の発展に寄与してきました。

1枚の写真から紐解く、岡大の歴史。
誰かにそっと教えてくなる…そんなエピソードとともに紹介します。

岡大 OU Pictorial History

モノクローム #02



サークルボックス 1969(昭和44)年

※岡山大学陸上競技場付近

現在、岡山大学では120を超える部活動・同好会が活動を展開しています。

学友会の部設立許可願いが提出されたのは、1949(昭和24)年10月のこと。当時結成されたのは、文化部23、体育部20の43部でした。参加学生は1273人と、在学生総数に対する比率は150%だったといいます。

当時は満足な課外施設はなく、部を設けたものの活動の場を求めるのに苦心したという記録が残っています。

1967(昭和42)年度の課外活動サークルは85団体。全学生の約64%が何らかのサークルに所属していました。レコード鑑賞部、煎茶同好会、タイプライター部もあったようです。文科系学部では文化系サークルに所属する学生が多く、理工科系学部では比較的体育系サークルに所属する学生が多かったようです。

(参考:岡山大学二十年史)



岡山大学広報 いちょう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発 行：岡山大学 総務・企画部 広報課

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294

E-mail www.adm.okayama-u.ac.jp

<https://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索

アンケート実施中!
先着5名様に
「くらしの
アナキズム」
(松村圭一郎 著)
プレゼント!

